

小学校理科における 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



個別最適な学び

児童一人一人が、自然の事物・現象との関わり方を自ら選択、調整しながら、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、資質・能力を身に付けていく学び

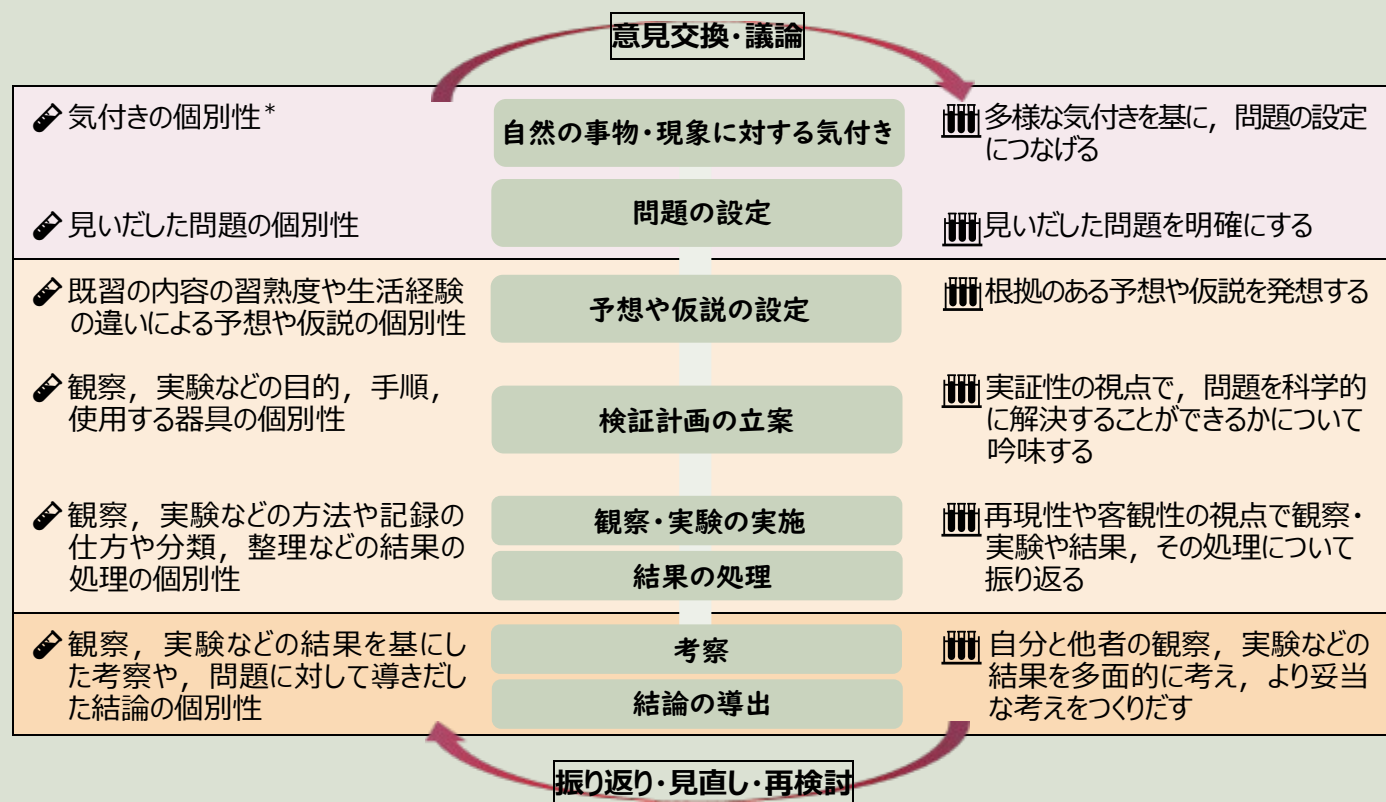


協働的な学び

児童一人一人が、多様な他者との関わりの中で問題を科学的に解決するために意見交換したり、根拠を基にして議論したりして、自分の考えをより妥当なものにしながら学びを広げ深めていくこと

問題解決の過程における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還の具体例

各学年で主に育成を目指す問題解決の力や、児童の実態などを考慮し、領域、単元及び1単位時間の中にそれぞれの学びを適切に取り入れていきましょう。



「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図るためには…単元のデザインがポイント！

問題解決の過程において、児童が理科の見方・考え方を働かせながら自分の学びを捉え直し、更新していくことができるように単元をデザインすることが重要です。児童は多様な他者との意見交換や議論を通して、考えを広げたり深めたりしながら、自分の考えをより妥当なものにしていきます。また、問題解決の過程を振り返り、必要に応じて見直したり再検討したりすることで、自らの考えの妥当性を検討していきます。このように、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の双方の学びを往還しながら、自然の事物・現象から見いだした問題を科学的に解決していくことができるように単元をデザインすることで、小学校理科で目指す資質・能力の育成につなげていきます。

* 個性性…問題解決の過程における「学習の個性化」と「指導の個性化」に着目して、本研究において整理した概念について示したもの